

永遠の「一枚」を残しておきませんか？

生前写真のすすめ

告別式の遺影が証明写真のようで素っ気なかった。

葬儀の準備に追われ、遺影の写真を選んでいる余裕がなかった。

写真を撮る機会がなく、遺影は数十年前の写真になってしまった。

— そんな話を耳にすることが、とても多くなっています。

写真は、故人の思い出と共に生き続ける大切な宝物です。

だからこそ、その方の人柄や生前の面影を感じさせる最高のショットを。

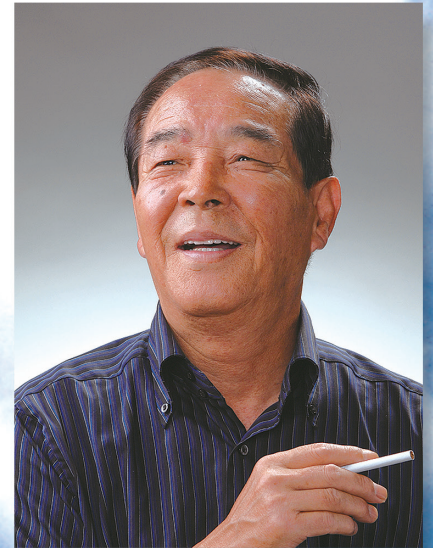
プロの写真家が、いつまでも心に残る「永遠の一枚」をお撮りします。

いきいきした表情の写真を高品質仕上げで。

写真は、特設スペースに出向いて撮影いたします。表情やポーズなど、ご要望があればお気軽にお申し付けください。

また、写真を撮られるのが苦手な方も、安心してお任せください。お顔の向きや目線の位置を変えるだけで、印象も大きく変わります。撮影した写真は、専門のプリント職人が、一枚一枚丁寧に、色あせしない高品質なプリント（カラーまたは白黒）にしてお届けします。

ご要望に応じて、お写真の各種レタッチ、メイクやスタイリスト（別途料金）の手配も承ります。



写真家
室澤敏晴

MESSAGE

20数年前のある日。私は池袋で行われたカメラフェスティバルの会場に
おりました。

フィルムメーカーの依頼で、大型カメラを使い、来場したお客様のポート
レートをとるという仕事だったのですが、平日の昼間だったにも関わらず、
連日、長蛇の列ができるほどの盛況ぶりでした。

撮影中、ふと不思議に思いました。何度も並ばれる方(特に年配の方)がと
ても多かったからです。思い切って尋ねてみますと、「良く撮れているので、
遺影に使いたい」と、笑いながら答えられていました。

その時、私は自分の撮った一枚の写真が、その方の家に永遠に残るかもし
れないと思い、気持ちを込めて撮影させていただいたことを覚えています。

写真は皆さまが思っている以上に雄弁です。語りかけると答えてくれる、
黙っていても、そっと見守ってしてくれる —。そんな写真をお撮りしたいと
思っています。

PROFILE

1959/富山県魚津市生まれ
1979/富山美術工芸専門学校 写真学科卒
森岡一雄氏に師事
1982/上京 伏見行介氏に師事
83~86/ボラロイド「20×24インチスーパーイメージの世界」
に参加、日本を代表する18人のアーティストのアシスタントを務める
仕事ではソニー、日立、NEC等のカタログ撮影、
日本テレビ「歌のトップテン」でのタレント撮影 etc
1989/帰郷 自転車で四国一周ひとり旅 CM制作会社にて広告写真を担当
1994/フリーとなり室澤写真事務所設立 現在に至る。
(富山ADC会員)

1992/大橋邦夫氏と二人展
93/クリエイティブTOYAMA IN NEW YORK参加
96/公募展「いのち・水・くらし」ポスター展 入選
97/富山と韓国交流ポスター展参加
2002/グループ展「フィクションマニション」参加
03/個展「スティルライフの世界」
06/個展「二次元の宇宙」